

科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進

事後評価

STSフォーラム

(Science and Technology in Society *forum*)

機関名：特定非営利活動法人STSフォーラム

代表者名：理事長 尾身幸次

実施期間：平成23年度

目次

I. 国際集会の概要	2
II. 経費	4
III. 実施結果及び成果	5
1. 目標達成状況	5
2. 成果	8
3. 計画・手法	12
4. 今後の計画(取組の継続性・発展性)	12
IV. 自己評価	14
V. 別添リスト	16
別添 1～5	

I. 国際集会の概要

- プログラム名: 科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進
- プロジェクト名: STS フォーラム (Science and Technology in Society *forum*)
- 機関名: 特定非営利活動法人 STS フォーラム
- 代表者名(役職): 尾身幸次(理事長)
- 実施期間: 1年間
- 実施経費: 54 百万円

国際集会の概要

1. 目標

科学技術分野における共通の価値観の確立に向けて、世界中の科学技術関係者のみならず、政治家・政策担当者・経済人・ジャーナリストといった幅広い分野のリーダー格の人々が、科学技術の“光と影”の問題を議論し、世界規模の行動につなげていくこと。

2. 必要性

STS フォーラムは事務局を東京に置き、毎年年次総会を京都で開いている。STS フォーラムは日本で実施されている、科学技術と人類の未来に関する最大の国際会議であり、国際的なコミュニケーションの場として定着しつつある。まさに国際政策対話の実現・科学技術外交の推進そのものである。

3. 具体的内容

テーマ: 「科学技術の光と影」Lights and Shadows of Science and Technology

- ・エネルギーと環境
- ・原子力の安全と将来の開発
- ・国際保健における新しい挑戦
- ・食糧と人口
- ・将来の情報通信技術は、経済活動とその他社会の側面の何を変えるか
- ・ナノテクノロジー
- ・長期にわたる持続可能性
- ・産学官連携
- ・科学技術外交
- ・気候変動
- ・マスメディアの役割
- ・新しい教育モデル

4. 実施計画

- (1) 第8回 STS 年次総会及び特別会合
- (2) ワシントン会議・欧州会議
- (3) 各国個別会合

実施体制

理事長 尾身幸次
事務局長 芹澤 ゆう

採択時コメント

本提案は、科学技術発展に伴い生ずる光と影の両側面を念頭に、科学技術の発展に関する共通の価値観確立を目指して、世界の幅広い分野の人々による議論を集め、例えば光の部分伸ばし、影となる部分をコントロールするなどして、人類の未来に貢献しようとする重要な取組である。政策対話に向けて複数の重要なテーマを対象に議論が行われ、科学技術全般に及ぶ成果が期待される。また、科学技術を専門家だけに委ねるのではなく、幅広い関係者そして多数の国々の関係者による議論を進めようとする構想は卓抜している。並行して、出席する要人による大臣会合、アカデミー会合、大学会合なども開かれ、多くの波及効果が期待でき、我が国がリーダーシップを発揮できる良い機会として、これまでの取組実績を含めて高く評価できる。今後、トップリーダーのみならず、人材育成の視点から中堅層にも焦点を当てた取組へと発展させるとともに、取組の継続的な展開に期待が持たれる。

追加コメント

事業実施に際しては、国から支援を受けていることを踏まえ、その効果やメリット等を適切に説明できるようにすることが望まれる。また、日本語での情報提供の充実など、より国民に開かれた会議とするための配慮を行うことが望まれる。

Ⅱ. 経費

1. 所要経費

(単位:百万円)

項目	所要経費
1. 人件費	
(1) 事業担当職員費	7.7
2. 事業実施費	
(1) 国内旅費	3.5
(2) 外国旅費	0.4
(3) 外国人等招聘旅費	5.5
(4) 会議開催費	16.2
(5) 通信運搬費	0.3
(6) 印刷製本費	3.0
(7) 借損料	0.8
(8) 雑役務費	16.6
3. その他	
所要経費 (合計)	54.0

Ⅲ. 実施結果及び成果

1. 目標達成状況

(1) 目標の達成状況

・計画(目標)

近年、科学技術は急速に発展し、人類の生活の向上・経済の発展に大きく貢献してきた。その反面、環境問題(地球温暖化等)、クローン人間の問題、IT(情報技術)とプライバシー侵害の問題などの、科学技術の発展に伴うマイナス面も生じてきている。すなわち、科学技術の発展には“光”と“影”の両側面がある。今後の人類の将来を考えると、こうした科学技術が人類の生活の向上や経済の発展に寄与するいわゆる“光”の部分伸ばし、“影”の部分コントロールしていく必要がある。このためには、科学技術の専門家のみならず、政治家・政策担当者・経営者といった幅広い分野の人々が、しかも、世界中から集まり一堂に会して、科学技術をどのように扱っていくかを議論する必要がある。このために開催しているのが STS フォーラムであり、科学技術分野における共通の価値観の確立に向けて、世界中の幅広い分野の人々が議論し、世界規模の行動につなげていくことを目的としている。

・平成 23 年度における実施計画は、以下のとおりである。

i. 第 8 回 STS 年次総会及び特別会合

100 ヶ国以上の国等から内外計 1,000 人以上の政治家・経営者・政策担当者・学者などの幅広い分野の人々が集まり開催する。

テーマ:科学技術の光と影

Lights and Shadows of Science and Technology

ii. ワシントン会議・欧州会議

STS フォーラム理事会及び評議員会の開催

iii. 各国個別会合

STS 年次総会の結果報告

世界各国においてテーマ・内容についての議論と、京都会議への招聘

・達成状況

i. 第 8 回 STS 年次総会の準備及び開催

2011 年 10 月 2 日～4 日

国立京都国際会館

世界80ヶ国から、約800人の政治家、経営者、政策担当者、学者などが一堂に会し、「科学技術の光と影」をテーマにして、エネルギーと環境、原子力の安全と将来の開発、国際保健、食糧問題、情報と人口問題、情報通信技術やナノテクノロジーなど、地球、人類の諸課題について、全体会議及び分科会で議論した。議論の集約化は、「声明」としてとりまとめ、公表し、各国元首、国際機関の長等に然るべきルートを通じて提出し、理解を求めた。尚、主な参加者は別添1, 声明は別添2を参照。

ii. STSフォーラムの特別会合の準備及び開催

特別会合(科学技術大臣会合・科学アカデミー会長会合・大学学長会合・科学技術資金

支援機構代表者会合・工学アカデミー会長会合)を、第8回年次総会同会場において開催した。

iii. STSフォーラム理事会及び評議員会の開催

- ・第8回STSフォーラム年次総会と併行して理事会と評議員会を開催し、次年度における事業計画、収支予算の承認や、年次総会における声明について議論した。
- ・2012年1月、米国ワシントンにおいて、STSフォーラムの総会、理事会及び評議員会を開催し、第8回年次総会の報告と第9回年次総会のプログラム、スピーカー等について議論した。
- ・なお、欧州会議は、2012年4月、ドイツ・ベルリンにおいて理事会及び評議員会を開催した。

iv. 各国個別会合

2011年10月～2012年3月

カタール、独、米、オランダ、ベルギー、仏等各国において、STS年次総会の結果報告や、各国要人とSTSフォーラムに関する幅広い意見交換を行うとともに、招聘活動を実施した。

(2) 採択コメントに対する対応

- i. 今後、トップリーダーのみならず、人材育成の視点から中堅層にも焦点を当てた取組へと発展させるとともに、取組の継続的な展開に期待が持たれる。

<中堅層に焦点を当てた取組>

STSフォーラムは、従来から、40歳以下の若手科学者を対象としたプログラム(第8回年次総会では、日本2名、北米2名、欧州2名、その他地域4名が参集)も実施しているが、本来本フォーラムの目的は、世界の各界のトップリーダーが一堂に会して、各種テーマについて議論し、共通の価値観を持って世界規模の行動につなげていくことを目的としているため、財政上の制約なども考慮すれば、専らその目的の遂行に全力を注いでいかざるを得ないと考えます。

<取組の継続的な展開>

STSフォーラムの年次総会は、京都において、毎年10月 第一日曜～火曜開催(3日間)することが確定しており、最終日にまとめる声明において、次回開催を宣言している。また、一年を通して理事会、評議員会、各国個別会合を開催し、京都会議への招聘を積極的に進め、また海外の各種国際会議に招聘されては、京都年次総会の報告を行い、本会議の継続的な展開を図っている。

- ii. 事業実施に際しては、国から支援を受けていることを踏まえ、その効果やメリット等を適切に説明できるようにすることが望まれる。

・STSフォーラムは、科学技術分野における国際会議としては、世界一の規模となっており、他に類を見ない会議となっている。本会議の開催を通じて、我が国の科学技術外交の分野におけるリーダーシップを確立することこそは、本事業の大きなメリットとして認識するものである。

・STSフォーラムは、科学技術分野における共通の価値観の確立に向けて、世界中の科学技術関係者のみならず政治家・政策担当者・経済人・ジャーナリストといった幅広い分野の人々が、科学技術の‘光と影’の問題を議論し、世界規模の行動につなげていくことを目標としており、年次総会の参加者に対して、世界規模の重要テーマに関する最新かつ幅広い情報の入手、問題意識の向上に貢献している。

・また、世界の各界トップリーダーが集まるこの機会を活用した科学技術大臣会議などの特別会合が、会期中に併行して開催されてきたところであり、次回に向けては、現在新たに、「研究機関長会議」の開催が

決定している。このように、各分野の参加者にとって、これまで実施していなかった会合を日本で開催できるメリットを、STSフォーラムが提供している。

・上記のような成果に加えて、ヴィジット・ジャパンの促進という観点に鑑みても、毎年定期的に、多数の世界各界のトップリーダー達が日本を訪れる機会を提供しているという点において、大きく貢献している。

・更に、第8回年次総会前日には、参加者等を対象とした「第3回地域的な気候変動に関する会議」や、福島第一原子力発電所の事故を踏まえた「第8回京都シンポジウム『エネルギーの情報化』による省エネルギー社会の実現」(基調講演:松山隆司氏/京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻教授)会議が開催されるなど、STSフォーラムの開催機会が、参加者に積極的に活用されている。

iii. また、日本語での情報提供の充実など、より国民に開かれた会議とするための配慮を行なうことが望まれる。
--

・プレスに対する情報提供として、従来から年次総会開催後、内外記者を対象とした記者会見を開いていたが、第8回年次総会においては、新たな取組として、日本人記者に対する同時通訳を行った。なお、第8回年次総会についての報道状況は、別添3を参照。

・また、従来年次総会の報告書は、世界各国に提供されるため、英文のみで作成されていたが、第8回年次総会の報告書については、日本語訳も作成した。

・更に、STSフォーラムのホームページについては、英文が主であったものを、英文と日本語の両方を選択できるシステムに直し、日本語による情報提供を充実した。

(3) 所期の計画どおりに進捗していない場合の理由、対処、実績
計画通りに進捗

2. 成果

(1) 実施状況

① 「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」第8回年次総会を2011年10月2日～4日の3日間、国立京都国際会館において開催した。世界80の国・地域及び3国際機関から、約800人の科学者、政策立案者、ビジネスマン、ジャーナリスト等が一堂に会して、科学技術と人類の未来について議論、意見交換を行った。毎年、科学技術は新たな発見や発明をもたらし、我々の生活、社会、文化に影響を与えているが、本フォーラムは、この分野での最新の成果とその人類に与える影響について意見交換する重要な場を提供してきた。

なお、第8回年次総会のプログラムのそれぞれのスピーカーについては別添4を参照。

【2011年第8回STSフォーラム年次総会】

「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム」

○平成23年10月2日(日)

開会式・全体会議 「科学技術と人類の未来」

全体会議 「イノベーションの推進:政治家・科学者・経営者間の対話」

全体会議 「エネルギーと環境」

「原子力の安全性と未来の発展」

分科会 第1シリーズ(7会場に分かれて併行開催)

- ・交通・移動のためのエネルギー
- ・個別化医療の最前線
- ・ナノエレクトロニクス
- ・産官学連携
- ・水
- ・居住環境の発展:スマートシティ
- ・科学技術におけるメディアの役割

○平成 23 年 10 月 3 日(月)

全体会議 「世界規模の保健の新しい試み」

分科会 第2シリーズ(7会場に分かれて併行開催)

- ・再生可能エネルギー/過渡的エネルギーの課題と解決策
- ・高齢の科学
- ・ナノテクノロジーは保健医療に寄与するか
- ・21 世紀の科学・工学教育
- ・森林の維持
- ・開発途上国におけるキャパシティビルディング
- ・持続可能な世界をつくるための人間行動の変化

全体会議 「食糧・人口問題」

分科会 第3シリーズ(7会場に分かれ併行開催)

- ・原子力の今後の展開
- ・感染症
- ・新素材
- ・21世紀型の大学モデル
- ・持続可能な海洋
- ・居住環境の発展:気候変動への適応
- ・科学技術外交と国際協力

全体会議 「情報通信技術はいかに経済活動や社会を変革するか？」

○平成23年 10 月 4 日

全体会議 「分科会総括」

全体会議 「人類の未来のための持続可能性」

全体会議・閉会式 「科学と社会 今後はどうするべきか？」

② 年次総会開催の準備会合の開催

評議員会及び理事会を次のとおり開催した。

i.京都会議

- ・理事会を 2011 年 10 月 3 日、国際京都国際会館において開催

2012 事業年度の事業計画及び収支予算について議決した。

・評議員会を 2011 年 10 月 3 日、京都において開催

第 8 回年次総会のフォーラム声明案を検討するとともに、第 9 回年次総会に向けた意見交換を行った。

ii. ワシントン会議

2012 年 1 月、ワシントン、全米科学アカデミーにおいて開催した。

・総会

理事の再任について議決した。

・理事会

2011 年会計年度の決算報告を行った。

・評議員会

STSフォーラム第 8 回年次総会についての報告と意見交換を行った。

STSフォーラム第 9 回年次総会のプログラム・招聘スピーカー等について意見交換を行い方向づけを行った。

(注) なお、欧州での理事会、評議員会は、2012 年 4 月 19 日ドイツ・ベルリンで開催した。

③各国個別会合の開催

i. 第 8 回年次総会開催に向けて、次のとおり情報収集・招聘活動を行うとともに、各国要人と意見交換を行った。

・2011 年 4 月 11 日-12 日

韓国

・2011 年 4 月 30 日-5 月 14 日

ロンドン会議の前後に米国、オランダ、デンマーク、スウェーデン、フィンランド

・2011 年 6 月 5 日-16 日

米国、ブラジル

・2011 年 7 月 18 日-21 日

中国

・2011 年 9 月 1 日- 4 日

米国(ハワイ)

ii. 第 8 回年次総会の結果報告や、情報収集・招聘活動を行うとともに、各国要人と意見交換を行った。

・2011 年 10 月 31 日-11 月 3 日

WISE Summit(カタール)

・2011 年 11 月 8 日-17 日

Falling Walls(ドイツ)、米国

・2011 年 11 月 27 日-12 月 3 日

オランダ、欧州議会 STOA 会議(ベルギー)、フランス

・2012 年 1 月 4 日-16 日

米国、ブラジル、アルゼンチン、チリ

・2012 年 2 月 13 日-20 日

カナダ

・2012 年 3 月 1 日-9 日

ポルトガル、南アフリカ共和国、ザンビア、ケニア

(注) なお上記の会合の他、他の国際会議の場において、主催者よりの求めに応じて STS フォーラムについて説明する機会も設けられた。詳細については、別添資料 5 を参照。

(2) 国際交流の成果

① 将来に向けて、科学・技術の在り方を議論する国際的なコミュニケーションの場につながったか

STS フォーラムは、そもそも「科学技術の光と影」をテーマに、毎年京都の年次総会にトップリーダーが一堂に集って議論を行い、その結果を声明としてとりまとめている。総会に至るまでには、理事長自らが各国の要人と個別に意見交換し、また米国及び欧州で開かれる理事会、評議員会においては、年次総会

の結果報告だけでなく、次回の個別テーマ等を話し合うなど、一年を通して、世界各地で科学技術の在り方が議論されている。

このように、STS フォーラムは、一過性の国際大会ではなく、各種の会議開催の仕組みがこれまでの実績によって蓄積されてきており、将来に向けた基盤は確立している。

②民間団体主導による科学技術外交の戦略的展開につながる活動であったか

STS フォーラムの活動主体は、「特定非営利活動法人 STSフォーラム」であり、ここが中核となって各国政府の科学技術関係者のみならず、政治家、経営者、学者など幅広い分野の関係者に働きかけて各種会合を開催しており、まさに民間団体主導である。また、この開催については主に日本の関係者、関係機関が議長役、事務局機能等を担っており、我が国の科学技術外交の戦略的展開につながる活動である。

(3)波及効果

①海外から招聘された科学技術関係者、政府関係者、大学等研究機関関係者、民間企業等要人が、国際集会以外においても、我が国に波及効果をもたらしたか(我が国要人との会談、他の国際集会への出席等)

STSフォーラム第8回年次総会には、各界から下記のような代表者が集まった:

科学技術関係者(ノーベル賞受賞者9名)、政府関係者(17カ国の科学技術・高等教育大臣、20カ国の研究資金を配分する機関の長)、大学等研究機関関係者(大学学長39名、科学アカデミー代表15名、工学アカデミー会長6名)、民間企業要人(世界のトップ企業の代表が100人以上)。

(主な参加者については、別添1を参照。)

京都の第8回年次総会の波及効果は、下記のような会議等が挙げられる。

イ. 年次総会の本会議とは別に、それぞれのグループが下記のような会合を行い、成果が現れている:

- A. 科学技術政策・高等教育担当大臣会合(10月2日午後16:15~18:30)が古川元久内閣府特命担当大臣とドイツのアネッテ・シャヴァーン大臣の共同議長のもとに行われ、17カ国の大臣、15カ国の科学顧問・次官等大臣級ないしその代理者が参加した。
- B. 科学アカデミーの代表の会合(10月2日午後16:15~18:30)が広渡清吾会長とオランダのロート・ダイグラーフ、アーツ・科学アカデミー会長の共同議長のもとに行われ、15カ国の代表が参加した。
- C. 工学アカデミー会長の会合が初めて企画され(10月3日午後14:00~16:30)、日本の工学アカデミーの小宮山宏会長と全米工学アカデミー会長のチャールズ・ヴェスト会長の共同議長のもとに行われ、6カ国の代表が参加した。
- D. 大学学長会合(10月3日午前07:30~10:00)が開催され、京都大学の松本紘総長が議長を務め、世界の大学39の大学の学長が参加した。
- E. ファンディング・エージェンシーの長の会合(10月3日午前10:00~12:00)が開催され、ドイツ学術振興会(DFG)のクライナー会長と科学技術振興機構の中村道治理事長が共同議長を務め、20カ国の代表が参加した。

ロ. 我が国要人との会談:

インド、タイ、ドイツの科学技術顧問、欧州議会科学技術選択肢評価委員会委員長、英国政府主席科学顧

問、米国エネルギー省次官等は、古川元久内閣府特命担当大臣(経済財政政策・科学技術政策担当)、中川正春文部科学大臣、北神圭朗経済産業大臣政務官、野依良治理化学研究所理事長(2001年ノーベル化学賞受賞)等の我が国の要人と個別・集合等様々な形で会場内外において会談を行った。

ハ. 他の国際集会への出席:

STS フォーラム第8回年次総会前後に、東京を始めとして、各地で関連の国際会議、シンポジウム、委員会等様々な会議・会合が行われ、STS フォーラムの主要参加者は、そのような場で登壇・発言した。

10月1日 「京都オープンシンポジウム」 京都大学 主催者:STS フォーラム京都サポート委員会

10月5日 「科学技術の持続可能な未来」 東京大学 主催者:JST

10月5日-7日 「バイオ・ジャパン 2011」 横浜 主催者:バイオ・ジャパン運営委員会

10月5日 アフリカ大臣夕食会 東京 主催者:アリアンス・フォーラム・STS フォーラム

② 我が国のプレゼンス向上につながったか

イ. NHK ワールド(世界に向けた英語放送)の特別番組(55分)が、全世界向けに放送された。

ロ. 年次総会での議論をもとに、原子力やエネルギー問題、世界的な保健問題、高齢化の問題をはじめとする世界、人類の共通課題についての科学技術政策提言としてとりまとめた声明は、世界170カ国の元首、国連の事務局長を含む国際機関の長に、然るべきルートを通して提出した。

ハ. 各国の国際会議において京都会議(STS フォーラム第8回年次総会)の報告を求められ、その招聘に応じて各地にて行った。(別添5を参照)

3. 計画・手法(「Ⅱ. 経費」とも関連)

① 目的・内容にかんがみて、予算の使途は適切であったか

NPO 法人 STS にフォーラムの活動は、全てが STS フォーラム開催のためであり、またその決算については、公認会計士事務所の監査及び法人の監事の監査を受けるとともに、理事会の承認を得ており、予算は適切に実施されている。

① 国際的なコミュニケーションの場を有効にする工夫等は適切に行われたか

i. STS フォーラムは、事務局を日本に置き、毎年、年次総会は日本の京都で開いている。持ち回りでの開催、あるいはその年だけ日本で開催されるものではない。また、理事会・評議員会を米国、欧州で開いて、毎年議論すべき適切なテーマと、それにふさわしいスピーカーを選んでいる。年次総会では、テーマごとに全体会議を開くとともに、更に個別テーマを対象とした数多くの分科会を開催し、数十人規模による、より具体的かつ専門的な意見交換を行なった。更に、コーヒブレークの時間などを設け、参加者が個別に会合を持つなど相互の意見交換を行う機会を設定した。

ii. 毎年10月年次総会の最終日には、議論の集約化を図り、世界、人類の共通課題を声明(Statement)として取りまとめ、マスコミに公表している。

iii. 世界中からのトップリーダーが多数集まる機会を活用し、科学技術大臣会議・機関長会議・学長議等の特別会合を開催した。

iv. 10月の年次総会だけではなく、年間を通じて、理事会、評議員会、各国個別会合の開催により、世界各地

で多くの意見交換・交流を行った。

4. 今後の計画(取組の継続性・発展性)

- ① 実施期間終了後も、科学・技術の在り方を議論する国際的なコミュニケーションの場の定着に向けた国際交流を継続するための工夫・見直しについて
- ② これまでの取組を発展させる、実施期間終了後の明確な国際交流についての継続ビジョンについて

- i. 毎年 10 月、京都において開催している STS 年次総会の議論をもとに、世界・人類の共通課題についての科学技術政策提言としてとりまとめた声明(Statement)については、マスコミに公表するとともに、各国元首、各国国際機関長に送り、理解を求めている。
- ii. これらの開催結果は、米国及び欧州で毎年開催している理事会、評議員会に報告するとともに、次回のテーマやスピーカーについて個別、具体的に議論している。また、各国を訪問し、各分野の用心と個別に会談し様々な意見交換や、総会への招聘活動も行なっているところである。
- iii. 特に、米国においては、その関係者は極めて大きな役割を果たしており、STS フォーラム アメリカン アソシエイツが創設され、2011年 1 月には、アメリカ合衆国・内国歳入庁により、寄付に関する免税法人として認められた(AA-STS 米国規約 501(c)(3)によって免税法人指定を受けた)。フォーラムへの招聘や寄付の呼びかけなど米国における支援活動が年間を通じて行われている。今年 6 月にはニューヨークにおいて同法人主催によるワークショップが開催され、その活動の活性化が図られる予定である。
- iv. 本 STS フォーラムは、これまで 8 回の開催を通じて、既に参加国約 100 カ国、参加者数約 1,000 人を数えるまでに発展してきたが、未だ未参加国は多く、また参加して欲しい関係者は世界に数多く存在するため、引き続き財政的基盤の確立に努めつつ、内外の関係者に理解を求め、また各国個別の招聘活動等に力を注ぐなど、本フォーラムの継続的発展に全力を注いで参りたい。

IV. 自己評価

1. 目標達成度

◎当初の目的である、科学技術外交の展開という点においては、第8回年次総会の開催、それに並行して実施された特別会合の開催、また年間を通じての海外における説明、招聘活動、理事会、評議員会等の開催を通じて、十分な成果を挙げると同時に、実績が蓄積され、基盤が形成されてきている。

◎当初100カ国以上の国等から内外1,000人以上の参加者を想定していたが、3月11日の大震災及び原発事故の影響もあり、結果として80カ国、約800人の参加となった。平成24年度は昨年度同様、100カ国以上、内外1,000人以上の参加者を目標として準備を進めている。

2. 成果

◎3月11日以降、海外よりの渡航者が減少している現状において、STSフォーラムが過去8回の開催により築きあげた基盤により、昨年度も無事京都での年次総会が敢行され、今後の継続にもつながっていることこそは、本事業の目的であるところの、科学技術外交の展開における大きな成果であると認識している。

◎国際会議は人選が難しく、大事なところである。STSフォーラムではそれぞれの国や組織からベストの人を呼ぶことを重視している。この点、STSフォーラムは、世界中の科学技術関係者のみならず政治家・政策担当者・経済人・ジャーナリストといった幅広い分野のトップリーダーの人々が、科学技術の光と影の問題を議論することで、参加者にとっては、世界規模の重要テーマに関する最新かつ幅広い情報の入手を可能とする場を提供し、問題意識の向上に貢献している。

◎STSフォーラムのサイドイベントとして、フォーラム終了後に科学技術振興機構(JST)、JETROや東京大学で講演会やシンポジウムが企画されている。STSフォーラムの主要な参加者がそういった会議の登壇者となっている。その結果として、STSフォーラムの求心力も高まっており、また経費の削減にもつながっている。

◎従来、世界人類のための会議として開催しているSTSフォーラムに関する情報については、もっぱら英語で提供してきたが、昨年度の追加コメントを踏まえて、引き続き、マスコミ対応に力を注ぐとともに、報告書やホームページについては、できるだけ日本語提供も行って参りたい。

3. 計画・手法の妥当性

特定非営利活動法人STSフォーラムの活動は全てがSTSフォーラム開催のためであり、またその決算については、公認会計士事務所の監査及び法人の監事の監査を受けるとともに、理事会の承認を得ており、予算は適切に実施されている。

4. 実施期間終了後における取組の継続性・発展性

年間を通して理事会、評議員会、各国個別会合を開催し、京都会議への招聘を積極的に進め、本取組の継続的な展開を図るとともに、今年6月には米国・ニューヨークにおいてワークショップを開き、米国内におけるSTSフォーラムに対する理解促進を行うなど、本取組の継続性、発展性に引き続き力を注いで参りたい。

5. その他

STS フォーラムは、世界中から政治家、経営者、政策担当者、学者などの幅広い分野の、しかもそのトップリーダーが一堂に会し、世界・人類の諸課題について意見交換、交流を行う、科学技術では世界随一の国際会議である。ここでは、我が国の関係者、関係機関が様々な形でそのリーダーシップを取るとともに、会場内外においても、各種の会合が持たれており、まさに我が国が科学技術の分野で世界的リーダーシップを発揮し、科学技術外交の展開に資する良い機会となっている。これらの活動は、民間団体主導による良さを最大級活かしつつ、我が国官民挙げて推進していくべきものであり、特に政府に対しては、財政面を中心にその支援を引き続きお願いしたい。

V. 別添リスト

- 1、主な参加者リスト
- 2、声明(ステートメント)和文
- 3、STS にフォーラムに関する報道状況
- 4、第8回年次総会 スピーカーリスト
- 5、STS フォーラムについて説明機会を得た、他の国際会議のリスト

別添1

2011年度の主な参加者

政治分野・政府系機関の長(敬称略)

中川正春	文部科学大臣
古川元久	内閣府特命担当大臣(経済財政政策・科学技術政策)
北神圭朗	経済産業大臣政務官
シャヴァーン・アネッテ	ドイツ教育研究大臣
クーニン・スティーブン	米国エネルギー省科学担当次官
クマール・アシュワニ	インド科学技術大臣
スラサワディー・プロートプラソップ	タイ科学技術大臣
リュービツヒ・ポール	欧州議会科学技術選択肢評価委員会委員長
ベティントン・ジョン	英国政府主席科学顧問
ボゴレ・オンポカ・ジャン=ピエール	コンゴ民主共和国政府
カマル・マーガレット	ケニア高等教育科学大臣
クライナー・マティアス	ドイツ研究振興協会会長(ドイツ)

世界的に著名な有識者・研究者

フリードマン・ジェローム	マサチューセッツ工科大学名誉教授 (米国、1990年ノーベル物理学賞受賞)
ルビア・カルロ	サステナビリティ研究所、技術担当理事 (イタリア、1984年ノーベル物理学賞受賞)
ロバーツ・リチャード	ニューイングランドバイオラボ・チーフオフィサー (英国、1993年ノーベル生理学・医学賞受賞)
アグレ・ピーター	ジョンズホプキンス大学マラリア研究所所長 (米国、2003年ノーベル化学賞受賞)
李遠哲 台湾中央研究院名誉院長	(台湾、1986年ノーベル化学賞受賞)
野依良治 理化学研究所理事長	(日本、2001年ノーベル化学賞受賞)
コアナンタコール・ターウィーサック	タイ科学技術開発機構理事長
山中伸弥	京都大学 iPS 細胞研究所

学術分野

ベスト・チャールズ	全米工学アカデミー院長(米国)
クライナー・マティアス	ドイツ研究振興協会会長(ドイツ)
天野之弥	IAEA 事務局長
小宮山宏	三菱総合研究所理事長、日本工学アカデミー会長
濱田純一	東京大学総長
松本 紘	京都大学総長
井上明久	東北大学総長
清家篤	慶応義塾大学塾長

財界

ホリデー・Jr.チャールズ O.バンク・オブ・アメリカ会長、競争力評議会名誉会長(米国)	
西田厚聰	東芝会長、日本経済団体連合会副会長(日本)
長谷川閑史	武田薬品工業社長、日本経済同友会代表幹事(日本)
山本正巳	富士通社長(日本)
東哲郎	東京エレクトロン会長
李潤雨	サムスン電子副会長(韓国)
エスコ・アホ	フィンランド元首相、ノキア副会長(フィンランド)
永山治	中外製薬社長(日本)
郭樹清	中国建設銀行会長(中国)
フェーヒイ・ジョン	ナショナルジオグラフィック協会会長兼 CEO

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)
第8回年次総会
(2011年10月4日、京都)

声明

1. STSフォーラム(特定非営利活動法人、本部:東京都千代田区、理事長:尾身幸次)は、2011年10月2日から4日にかけて第8回年次総会を開催、約80の国・地域・国際機関からおおよそ800名の科学技術、政治、ビジネス、メディア各界の世界的なリーダーが一堂に会した。
2. 東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故は、日本に重大な衝撃を与えた。全世界が、これらの災害に対し日本の人々が示した冷静さ、立ち直る力、尊厳さを賞賛している。東京電力福島第一原子力発電所事故は、人類の未来に向けて原子力の問題にどのように立ち向かうかという問題を提起した。我々は、今年のフォーラムの重要なテーマとして、「エネルギーと環境」、「原子力の安全性と将来の発展」を取り上げた。
3. 将来のエネルギー供給に関しては、安全に関する最良な基準、環境と社会の両面からの適合性及び一般の人々の手に入る価格であることを前提に、幅広いオプションがあるべきである。国によって将来のエネルギー確保への道は異なる。原子力は当面、引き続き重要な役割を果たす。原子力安全の強化と核セキュリティ対策は非常に重要であり、原子力安全と核セキュリティに関する国際協力を強化する必要があることが合意された。
4. 世界的な保健問題については、ゲノム医療と再生医療に関する研究が急速に進展にしている。このような状況において、オーダーメイド医療と予防医療に関する研究もより一層推進されるべきである。途上国における感染症と非伝染性疾病への対応能力を強化すべきであり、民間、公的機関及び世界保健機構(WHO)間の国際協力の一層の推進のために新しい国際的なシステムが必要である。
5. 高齢化は、高齢者医療・介護や社会的なセーフティーネットを提供するだけでなく、高齢者の生産的な市民としての社会参加という社会的状況の見直しを迫っているという点で、我々にこれまでに例のない課題とチャンスを示している。科学技術は後半生の生活の質の向上に重要な役割を果たしている。
6. 既に世界の人口の半数以上が都市に居住し、都市化が急速に進んでいることが様々な課題とチャンスをもたらしている。科学技術と都市計画を活用した効率的な「スマート・シティ」により、市民自身も対象とした、住みやすく人にやさしい都市環境の整備を推進しなければならない。
7. 90億人から100億人にのぼる世界の人口に食料を提供し、地球を破滅させる飢餓を撲滅するためには、農業をさらに進化させることで、増加する人口、食生活の変化及び環境保護という問題に対応する必要がある。栄養価が高く、気候変動に対し今まで以上に弾力性のある作物の品種開発、農業システムの改善、生態系の維持管理及び廃棄物の削減には研究開発が不可欠である。遺伝子組換え作物を含む農業分野のバイオテクノロジーがこれらの改善に貢献すべきである。

特に母親と新生児にとっては、バランスの取れた栄養が健康を増進し、死亡を減少させている。

8. 海洋と異なり、不十分ではあるものの、新鮮な水の確保及び森林保護の問題について世界的な関心が示されている。従って、世界的な関心が低い海洋問題を検討し、海洋に焦点をあてた政策立案を行う国際団体の設立を提案する。この団体は、世界的な海洋政策を推進するために、世界で実績のある海洋科学コミュニティや政策コミュニティと協働し、海洋に関する知識を政策立案者に分かり易く伝えるとともに科学者と政策立案者の間の意見交換を促進することが期待されている。
9. 効果的な情報通信面のインフラ整備が、教育、医療及びビジネス・チャンスにおける国内外の格差是正にとって重要である。情報通信技術をめぐる急激な環境の変化のなかで、サイバーセキュリティとプライバシーの問題を見直すことは将来の情報通信技術に非常に重要である。
10. ナノテクノロジーは、エレクトロニクス、製薬、ライフサイエンス、物質・材料等の様々な分野で非常に重要な役割を果たしており、新しいフロンティアを切り拓く可能性のある技術であるため、積極的に活用すべきである。
11. 産学官連携は経済社会の活力の維持に貢献している。大学及び研究機関については、理工教育とともに、基礎研究及び先進的な研究開発の成果を社会に提供してイノベーションを振興することが期待される。大学は、人文科学と自然科学を結ぶハブであり、批判的思考法を促進し、学生に責任能力のある地球市民となる準備をさせる機能を有する。
12. 今年初めて、STSフォーラムで世界の工学アカデミー会長による会合が開催された。工学アカデミーは科学技術と社会との結びつきを強化することが期待されている。
13. 科学技術外交を推進し、国境を越えて科学コミュニティ間の関係を強化することにより、国家間の対話と相互理解の新しい道を作る必要性が確認された。
14. 資金配分機関(Funding Agency)は科学分野の国際協力関連プロジェクトに対して財政支援を行い、特に地球的課題について多国間提携を促進すべきである。教育、研究及び地域の起業家を支えることは発展途上国の人材育成に不可欠である。
15. STS フォーラムの付属セッションであるの地域気候変動セッションでは、地域の特性に応じた行動をとるため、科学、地域コミュニティ及び政策決定者を動かす知識と行動のネットワークのベストプラクティスを見直した。このような地域と行動のネットワークは世界の気候変動の深刻な影響の脅威にさらされているすべての場所で組織されるべきである。
16. 公共政策の問題に関して科学技術の光と影の問題に取り組んでいる科学者や研究機関によるコミュニケーションの向上と並んで、メディアが客観的で科学的な事実に基づく報道をすることが重要である。また、科学者とメディアの継続的な対話を促進することも非常に重要である。
17. 人類の深刻な問題を解決するために科学技術が十分に力を発揮するには、個人及び社会の

行動を大きく変化させることが不可欠である。社会科学、人文科学及び社会のイノベーションがこの分野で重要な役割を果たしている。資源が無限でないことを認識し、この限りある資源をより効率的に使用していくためには市民への啓蒙が必要である。

18. 人類が地球上で存続し繁栄し続ける上で持続可能性が不可欠である。このことは、自然と調和して生活することを意味し、人類にとって非常に重要なことある。このため、これからもSTSフォーラムの主要議題として持続可能性に焦点を当てていく予定である。
19. STSフォーラムの後援によって現在行われている科学技術の問題に関する様々な利害関係者と世界のリーダー間の意見交換が重要となっており、STSフォーラムは単なる会議から運動へと発展しつつあることが明確になっている。
20. 人類のより良い未来の建設に貢献するためにこの場で再会することを確認した。STSフォーラムは第9回年次総会を2012年10月7日(日)から9日(火)まで開催する。

以上

別添3

STSフォーラム第8回年次総会(2011年)関連報道・記事

新聞

10月日

読売新聞(京都版)

10月日

フジサンケイビジネスアイ(東京版)

フジサンケイビジネスアイ(大阪版)

京都新聞

毎日新聞(京都版)

日本経済新聞(東京版)

日本経済新聞(大阪版)

日本経済新聞(名古屋版)

日本経済新聞(札幌版)

日本経済新聞(福岡版)

サンケイエクスプレス(東京版)

日サンケイエクスプレス(大阪版)

産経新聞(東京版)

産経新聞(大阪版)

読売新聞(東京版)

読売新聞(大阪版)

読売新聞(名古屋版)

読売新聞(福岡版)

読売新聞(京都版)

読売新聞(札幌版)

読売新聞(福岡版)

ブルームバーグ(英語日本語)

ブルームバーグ(英語日本語)

10月日

朝日新聞(東京版)

朝日新聞(大阪版)

朝日新聞(札幌版)

朝日新聞(名古屋版)

朝日新聞(北九州版)

京都新聞

10月日

産経新聞(大阪版)

神戸新聞

毎日新聞(東京版)

毎日新聞(名古屋版)

毎日新聞(札幌版)

毎日新聞(北九州版)

読売新聞(東京版)
読売新聞(大阪版)
読売新聞(名古屋版)
読売新聞(札幌版)
読売新聞(福岡版)
読売新聞(福岡版)

10月6日

琉球新報(奈良版)

10月8日

日本経産業新聞(東京版)
日本経産業新聞(大阪版)

10月9日

日本経産業新聞(東京版)
日本経産業新聞(大阪版)

10月10日

サンケイエクスプレス Vol. 1(東京版)
サンケイエクスプレス Vol. 1(大阪版)

10月11日

科学新聞
科学新聞(関連記事)
サンケイエクスプレス Vol. 2(東京版)
サンケイエクスプレス Vol. 2(大阪版)

10月12日

サンケイエクスプレス Vol. 3(東京版)
サンケイエクスプレス Vol. 3(大阪版)

10月13日

サンケイエクスプレス Vol. 4(東京版)
サンケイエクスプレス Vol. 4(大阪版)
産経新聞(東京版)
産経新聞(大阪版)

11月

THE JAPAN JOURNAL(英語)

TV

11月日

NHK ワールドTV - 48分スペシャル番組
“8th Annual Meeting of STS *forum*” - (英語)

別添 4

第8回年次総会におけるスピーカーリスト

2011年10月2日(日曜日)10:00-11:00

オープニングプレナリーセッション: 科学技術と人類の未来

議長:

尾身幸次 STS フォーラム創業者兼理事長、日本

スピーカー:

長谷川閑史 武田薬品株式会社社長兼最高経営責任者、日本経済同友会会長

Kumar, Ashwani, Minister of State for Science, Technology, Earth Sciences, Planning and Parliamentary Affairs, インド

中川正春 文部科学大臣、日本

Rubia, Carlo Scientific Director, Institute for Advanced Sustainability Studies、1984年ノーベル物理学賞受賞者、イタリア

Schavan, Annette Minister, Federal Ministry of Education and Research, ドイツ

11:00~12:10 セッション 101

イノベーションの推進:政治家・科学者・経営者間の対話

議長:

Aho, Esko Executive Vice President, Corporate Relations and Responsibility and Member, Group Executive Board, Nokia Corporation, フィンランド

スピーカー:

<政治指導者>

Mbarawa, Makame Minister of Communications, Science and Technology, タンザニア

Surawadi, Plodprasop Minister of Science and Technology (MOST), タイ

<科学者>

Agre, Peter Director, Johns Hopkins Malaria Research Institute (JHMRI), Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health, 2003年ノーベル生化学賞受賞、米国

Feng, Changgen 中国科学技術協会(CAST) 副社長兼事務局長、中国

野依良治 理化学研究所理事長 2001年ノーベル化学賞受賞、日本

<実業家>

山本正巳 富士通株式会社 代表取締役社長、日本

13:30-14:45

セッション 102 A:エネルギーと環境問題

議長:

Moniz, Ernest Cecil and Ida Green Distinguished Professor of Physics and Engineering Systems,
Massachusetts Institute of Technology, 米国

スピーカー:

Beddington, John Chief Scientific Adviser to HM Government (政府主席科学顧問) 英国
北神圭朗 日本経済産業大臣政務官、日本

Kleiner, Matthias President, German Research Foundation (DFG)、ドイツ

Koonin, Steven Under Secretary for Science, U.S. Department of Energy, 米国

西田厚聰 (株)東芝会長、経団連副会長、日本

14:45-16:00

セッション 102 B: 原子力安全性と未来の発展

議長:

Moniz, Ernest Cecil and Ida Green Distinguished Professor of Physics and Engineering Systems,
Massachusetts Institute of Technology,
米国

スピーカー:

天野之弥 国際原子力機関(IAEA)、日本

Beddington, John Chief Scientific Adviser to HM Government (政府主席科学顧問) 英国
北神 圭朗 経済産業大臣政務官、日本

Koonin, Steven. Under Secretary for Science, U.S. Department of Energy, 米国

Lei, Zengguang Vice President, Chinese Nuclear Society、中国

Stricker, Laurent Chairman, World Association of Nuclear Operators, フランス

16:30-18:30

セッション 103-A1: 交通・移動のためのエネルギー

議長:

Campbell, Donald. Senior Strategy Advisor, Davis LLP, カナダ

スピーカー:

藤井清孝 President, Better Place Japan, 日本

Homchean, Kasemsri Governor, Thailand Institute of Scientific and Technological
Research, タイ

Kern, Mauro Executive Vice President, Engineering and Technology, Embraer,
ブラジル

McDougall, John R. President, National Research Council (NRC), カナダ

小久見善八 京都大学教授, Department of Energy and Hydrocarbon Chemistry, 日

本

16 : 30-18 : 30

セッション 103-B1 : 個別化医療の最前線

議長:

永井良三 東京大学大学院循環器内科教授兼学科長、日本

スピーカー:

Dolphin, David Chair, Center for Drug Research and Development (CDRD), カナダ

Goryanin, Igor Biomedicine Cluster 取締役, Skolkovo Foundation, ロシア

林崎良英 理化学研究所オミックス研究基盤領域取締役, 日本

Stein, Christian Ascenion GmbH 会長兼最高経営責任者、デンマーク

16 : 30-18 : 30

セッション 103-C1 : ナノエレクトロニクス

議長:

荒川 泰彦 東京大学ナノエレクトロニクス共同研究センター所長、日本

スピーカー:

石川 哲也 理化学研究所 播磨研究所所長、日本

Matthias Kaiserswerth Director, IBM Zurich Research Laboratory, スイス

Oh-Kyong Kwon Academic Vice President, Hanyang University, 大韓民国

Aymeric Sallin Founder and Managing Director, NanoDimension, スイス

Nai-Chang Yeh Professor of Physics, California Institute of Tech. (CALTECH) 米国

16 : 30-18 : 30

セッション 103 - D1: 産・学・官の連携

議長:

Rinnooy Kan, Alexandre President, Social-Econ. Council (SER), オランダ

スピーカー:

Ananda Chakrabarty Distinguished University Professor, Microbiology & Immunology, University of Illinois, 米国

Suzanne Fortier President, Natural Science and Engineering Research Council of Canada (NSERC), カナダ

Rene Lammers SVP & COO PepsiCo's Corp. R & D, PepsiCo, Inc、. 米国

西村やすとし	衆議院議員、日本
Glaucius Oliva	President, The National Council for Scientific and Technological Development (CNPQ), ブラジル
Tatang Taufik	Deputy Chairman, Technology Policy Assessment , Agency for the Assessment and Application of Technology (BPPT), インドネシア

16 : 30-18 : 30

セッション 103-E1 : 「水」

議長:

Toh Michael	Director Industry Development, Public Utilities Board (PUB) Singapore, シンガポール
-------------	---

スピーカー:

阿部 晃一	東レ株式会社専務取締役、日本
Al-Hinai, Hilal	Secretary General, Research Council of Oman, オマーン
Park Eun-Kyung	President, Korea Water Forum; Ambassador for Water Resources, Ministry of Foreign Affairs and Trade, 大韓民国
Percy David, Alberta	Borden Ladner Gervais Chair of Energy Law and Former Dean, Faculty of Law, University of Alberta, カナダ
Upadhyay Vibhav	Chairman, India Center Foundation, インド

16:30-18:30

セッション 103 F1:居住環境の発展: スマートシティ

議長:

Rubinstein, Ellis	President and CEO, (NYAS), US
-------------------	-------------------------------

スピーカー:

Bellingham, Richard	Senior Research Fellow, Energy Policy Fraser of Allander Institute, University of Strathclyde, Business School, 英国
Dutkiewicz, Rafał,	Mayor, City of Wrocław, PLFoley Donough, アイルランド
Foley, Donough	Head, Government & Regulatory Affairs Philips Electronics Asia Pacific
Harrison, Colin	Director, IBM Enterprises Initiatives, IBM Corporation, 英コック
野田ヨシヒコ	Head of PPP, Infrastructure & Gov. Asia Pacific PWC, 日本
奥山恵美子	仙台市長、日本
Schmitt Gerhard	International Institutional Affairs, Swiss Federal Institute of Technology(ETH)Zurich, デンマーク
安田 豊	KDDI 研究開発所長、日本

16:30-18:30

セッション 103-G1: 科学技術におけるメディアの役割

議長:

Blanco Mendoza Founder and CEO, Soluciones Estratégicas, メキシコ

スピーカー:

Gergils Hakan CEO, Ecofin Invest AB, スウェーデン

Kolman Michiel Senior Vice President of Global Academic Relations, Elsevier B.V., オランダ

O'Reilly David Head of Group Research & Development, British American Tobacco Plc., 英国

Rangaswami J.P. Chief Scientist, Salesforce.com, inc., インド

Steen Tomoko Senior Research Specialist, Science, Technology and Business Division of the Library of Congress. Adjunct Professor, Department of History, Johns Hopkins University, 米国

Turner Sebastien, Chairman of the Board of Trustees, Falling Walls Conference, デンマーク

19:30-21:00

セッション 104: 公式晩餐会

議長:

Rübig, Paul Chairman of Science and Technology Options Assessment (STOA); Member, European Parliament, オーストリア

スピーカー:

Earle, Sylvia Explorer-in-Residence, National Geographic Society, 米国

2011年10月3日(月曜日)

8:30-9:50

セッション 200 本会議: 世界規模の保健の新しい試み

議長 :

Alberts, Bruce M. Editor in Chief, *Science*; Professor, Department of Biochemistry and Biophysics, University of California, San Francisco (UCSF), 米国

スピーカー :

Barner, Andreas Chairman, Boehringer Ingelheim GmbH, ドイツ

Drake, Michael Chancellor, University of California, Irvine (UCI), 米国

Goel, Anita Chairman and CEO, Nanobiosyn Diagnostics, Inc., 米国

永山 治 中外製薬株式会社代表取締役会長、日本

Warren, John Robin Emeritus Professor of Medicine, University of Western Australia (UWA), Nobel Laureate for Physiology or Medicine 2005, オーストラリア

山中伸弥 京都大学 IPS 細胞研究所(CIRA)所長、日本

10:20 - 12:20

セッション 201- A2 : 再生可能エネルギー/過渡的エネルギーの課題と解決策

議長：

Püttgen, Hans Björn, Director and Energy Systems Management; Chair, Energy Center Swiss Federal Institute of Technology, Lausanne (EPFL), スイス

スピーカー：

Behrendt, Frank, Head of Chair for Energy Process Engineering & Conversion Technologies for Renewable Energies, Berlin Institute of Technology,ドイツ

Godorr, Sven, Manager of Research and Dev., Sasol Technology, 南アフリカ共和国

Khanna, Madhu, Professor, Dept. of Agricultural and Consumer Economics/Energy Biosciences Institute University of Illinois at Urbana-Champaign, インド

Minster, Jean-François, Senior Vice President Scientific Development, Total S.A., フランス

Phalakornkul, Kanokros, VP, General Manager of Innovation PTT Public Co. Ltd., タイ

Tadeu da Costa Fraga, Carlos, Executive Manager Research and Development Center, Petrobras (CENPES), ブラジル

10:20-12:20

セッション 201-B2 老齢の科学

議長：

清家篤 慶應義塾長 日本

スピーカー：

Chapman, Paul, General Manager, Pharmaceutical Research Division, Takeda Pharmaceutical Company Limited, 米国

古市 泰宏, Chairman and Director, GeneCare Research Institute Co.,Ltd.,日本

井村 裕夫, 財団法人 先端医療振興財団 理事長、日本

Schnitzer-Ungewig, J., Secretary General, German Academy of Sciences, Leopoldina, ドイツ

芹沢宏明, President and Chief Executive Officer, Coyote Pharmaceuticals, Inc., 日本

Ugrumov, Mikhail, Advisor of the President of RAS on International Scientific Cooperation, Presidium of the Russian Academy of Sciences on Foreign Affairs Russian Academy of Sciences (RAS); Head of Laboratory, Institute of Developmental Biology RAS, ロシア

10 : 20-12 : 20

セッション 201- C2 : 医療関連 ナノテクノロジー

議長:

Rietschel, Ernst, Former President; Professor Emeritus, Leibniz Association, ドイツ

スピーカー:

Fouke, Janie, Dean of College of Engineering, Nanyang Technological University, 米国

橋田充, 京都大学 大学院薬学研究科 医療薬科学専攻 薬品動態制御学分野教授, 日本

Kraegeloh, Annette, Head of Department □Nano Cell Interactions□, INM leibniz Institute for New Materials, ドイツ

Songsivilai, Sirirug, Executive Dir., National Nanotechnology Center、タイ

10 : 20-12 : 20

セッション 201 D2: 21 世紀の科学・工学教育

議長:

Dijkgraaf, Robbert, President, Royal Netherlands Academy of Arts and Sciences (KNAW), オランダ

スピーカー:

Bartels, Dennis, Executive Director, ExplOration, 米国

Carneiro, Sandoval, General Manager for Partnerships and Research Funding, Vale S.A., ブラジル

Farley, Sara, COO, Global Knowledge Initiative, 米国

Honeth, Peter, State Secretary, Ministry of Educ. & Research, スウェーデン

Natera, Angélica, Senior Program and Development Officer, Harvard University - LASPAU, ベネズエラ

Ponomarev, Alexey, Deputy Minister of Education and Science, ロシア

Wanniarachchi, Pavithra, Minister of Technology and Research, スリランカ

10 : 20-12 : 20

セッション 201 - E2: 森林の維持

議長:

Innes, John, Faculty of Forestry, The University of British Columbia, カナダ

スピーカー:

Raitio, Hannu, Director General, Metla, The Finnish Forest Research Institute, フィンランド

Sophonpanich, Kalaya, Secretary General, Rajapruerk Institute Foundation,

タイ

鈴木和夫, 森林総合研究所理事長, 日本

10:20-12:20

セッション 201-F2: 開発途上国における人材育成

議長:

McKinnell, Henry, Chairman, Accordia Global Health Foundation; former Chairman and CEO, Pfizer Inc, 米国

スピーカー:

Al-Faisal, Loulwah, Vice Chairman of the Board of Trustees; General Supervisor Effat University, サウジアラビア

Amirinia, Hamidreza, Advisor to the Presidency Center for Innovation and Technology Cooperation of I.R. Iran; Member of Commission, Supreme Council of Science, Research and Technology (ATF), イラン

Dzinotyiweyi, Heneri, Minister of S&T Development, ジンバブエ

Gunaratna, Locana, President, National Academy of Sciences of Sri Lanka (NASSL), スリランカ

Hara, George, Group Chairman and CEO, DEFTA Partners; Chairman of the Board, Alliance Forum Foundation / UN, 日本

Hassan, Mohamed, Treasurer, The Academy of Sciences for the Developing World (TWAS), スーダン

Koanantakool, Thaweesak, President, National Science and Technology Development Agency (NSTDA), タイ

Simons, Thad, President and CEO, Novus International, Inc., 米国

10:20-12:20

セッション 201-G2: 持続可能な世界をつくるための人間行動の変化

議長:

Campbell, Philip, Editor-in-Chief, Nature, 英国

スピーカー:

Noser, Ruedi, National Councilor, Swiss National Parliament, スイス

Bamberger, Yves, Scientific Advisor of the Chairman and CEO, Electricité de France (EDF),
フランス

黒川清, 特定非営利活動法人日本医療政策機構 代表理事、日本

Kleiber, Michael, President, Polish Academy of Sciences,
ポーランド

Staudinger, Ursula, Vice President and Dean, Jacobs Center on Lifelong Learning and
Institutional Development Jacobs University Bremen, ドイツ

Patel, Ketan, Chief Executive Officer, Greater Pacific Capital, 英国

13 : 00-14 : 00

セッション 202: 食糧・人口問題

議長:

Fahey, John, Chairman and Chief Executive Officer, National Geographic Society,
米国

スピーカー:

Serageldin, Ismail, Director, Library of Alexandria, エジプト

Beachy, Roger, Professor, President Emeritus, Washington University in St. Louis; former
Director of National Institute of Food and Agriculture (NIFA), 米国

Huang, Sanwen, Professor, Institute of Vegetables and Flowers, Chinese Academy of
Agricultural Sciences, 中国

Kamar, Margaret, Minister of Higher Education, Science and Technology, ケニア

Klausener, Alexander, Member of the Executive Committee and Head of Research, Bayer
CropScience A.G., ドイツ

14 : 20-16 : 20

セッション 203 - A3: 原子力技術の将来性

議長:

Dowdeswell, Elizabeth, President and CEO, Council of Canadian Academies, カナダ

スピーカー:

Cashmore, Roger, Chairman, United Kingdom Atomic Energy Authority, 英国

本島修, 自然科学研究機構 理事・副機構長 /核融合科学研究所 所長、日本

Shahkarami, Amir, CEO, Exelon Nuclear Partners ; Senior Vice President, Exelon Generation,
Exelon Corporation, 米国

Yeh, Gong Ping, Senior Physicist, Fermi National Accelerator Laboratory,
米国
横溝英明, 日本原子力研究開発機構(JAEA)理事, 日本

14:20-16:20

セッション 203-B3: 感染症

議長 :

TYRRELL, Lorne, Professor, Dept. of Medical Microbiology & Immunology, Li Ka Shing Institute of Virology, カナダ

発言者:

Herrling, Paul, Head of Novartis Institutes for Developing World Medical Research, Novartis Pharma AG, スイス

永井 美之, 理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター長, 日本

Ruxrungtham, Kiat, Associate Dean for Research, Faculty of Medicine, Chulalongkorn Univ., タイ

Shahabudin, Sharifah Hapsah, Vice Chancellor, National University of Malaysia (UKM), マレーシア

Were, Miriam, Co-Founder and Health Specialist, Uzima Foundation, ケニア

Winter, Alan, President and Chief Executive Officer, Genome British Columbia, カナダ

14:20-16:20

セッション 203 C3: 新素材

議長:

Carty, Arthur, Research Professor and Executive Director, University of Waterloo Institute for Nanotechnology, カナダ

スピーカー:

Byrne, Jennifer, Vice President, Corporate Engineering & Technology, Lockheed Martin Corporation, 米国

Cantor, Brian, Vice-Chancellor, University of York, 英国

Chetanachan, Wilaiporn, Director, CTO Office, The Siam Cement PLC, タイ

Joris, Pierre, Chief Scientific & Innovation Officer, Solvay S.A., ベルギー

Kramvis, Andreas, President and Chief Executive Officer, Honeywell Specialty Materials, 米国

Mesot, Joël, Director, Paul Scherrer Institut (PSI), スイス

潮田 資勝, (独)物質・材料研究機構 (NIMS), 日本

14:20-16:20

セッション 203-D3: 21世紀型の新大学モデル

議長：

Chan, Tony F., President, The Hong Kong University of Science and Technology,
香港

スピーカー：

Dorfan, Jonathan, President-elect, Okinawa Institute of S & T,
米国

井上明久, 東北大学総長、日本

Johnsrud, Linda, Executive VP, Academic Planning Affairs/Provost, University of Hawaii, 米国

Khakhar, Devang, Director, Indian Institute of Technology, Bombay (IITB),

インド

Sahin, Muhammed, Rector, Istanbul Technical University (ITU),

トルコ

Schiesser, Fritz, President, ETH Board – Swiss Federal Institute of Technology (ETH), スイス

Wintermantel, Margret, President, German Rector's Conference,

ドイツ

14:20-16:20

セッション 203 : E3 持続可能な海洋

議長：

Nepstad, Tore, Managing Director, Institute of Marine Research (IMR),
ノルウェイ

スピーカー：

Eggen, Rik, Deputy Director, Swiss Federal Institute of Aquatic Science and Technology (Eawag),
スイス

白山 義久 独立行政法人海洋研究開発機構理事

(京都大学教授・フィールド 科学教育研究センター長)、日本

Taylor, Martin, President and CEO, Ocean Networks Canada (ONC), カナダ

Earle, Sylvia, Explorer-in-Residence, National Geographic Society, 米国

14:20-16:20

セッション 203 - F3: 居住環境の発展: 気候変動への適応

議長：

Kennel, Charles, Distinguished Professor Emeritus, Scripps Institution of Oceanography University of
California, San Diego (UCSD); Senior Advisor, Sustainability Solutions Institute, 米国

スピーカー：

Arteaga, Rosalía, President, Fundacion FIDAL, エクアドル

Burkhardt-Holm, Patricia, Head of Man-Society-Environment Program, University of Basel, スイス

渡邊紹裕, 総合地球環境学研究所(RIHN)副所長, 日本

Zehnder, Alexander, Scientific Director, Alberta Water Research Institute; Alberta Innovates - Energy and Environ. Solutions (EES), スイス

14:20-16:20

セッション 203 - G3: 科学技術外交と国際協力

議長

Lim, Chuan Poh, Chairman, A*STAR, シンガポール

スピーカー

Bates, William C., Chief of Staff, Council on Competitiveness; Executive Director, Global Federation of Competitiveness Councils, 米国

Mazur, Eric, Dean of Applied Physics, Harvard University, 米国

Thinaphong, Somchet, Chairman, Executive Board, Geo-informatics and Space Technology Development Agency (Public Organization) (GISTDA), タイ

渡部和男, 特命全権大使(科学技術協力担当兼国連行財政問題担当)、日本

16:50-18:00

セッション 204 : 情報通信技術はいかに経済活動や社会を変革するか?

議長:

Onwurah, Chinyeku, Her Majesty's Loyal Opposition Spokesperson on Innovation and Science, 英国

スピーカー:

Curran, Thomas Aidan, Chief Technology Officer, Product and Innovation, Deutsche Telecom. ドイツ

Gannes, St. CEO, XVD Technology Holdings, 米国

東哲郎, 東京エレクトロン株式会社社会長、日本

Schlichting, Richard, Executive Director, Software Systems, AT&T Labs Research, 米国

Wei, Xin, Chairmen of Peking University founder Group, 中国

2011年10月4日(火曜日)

8:30-9:25

セッション 300: 各セッションからの主要メッセージ

議長:

Vest, Charles, 全米工学アカデミー(NAE)会長、米国

スピーカー

[A]**吉川弘之** 科学技術振興機構研究開発戦略センター(CRDS)事務局長、日本

[B]**Andersson Bertil** 南洋理工大学(NTU)学長、スウェーデン

[C]**Kim Doh-Yeon** 国家科学技術委員会委員長、韓国

[D]**Bhumiratana Sakarindr** モンクット王工科大学トンブリ校(KMUTT)校長、タイ国

[E]**Rock Alan** オタワ大学学長兼カウンセラー、カナダ

[F]**Fox Marye Anne** カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)、米国

[G] **Steinlin Walter** スイス連邦技術イノベーション委員会(CTI)委員長、スイス

10:45-11:40

セッション 302: 人類の未来のための持続可能性

議事進行:

Y.T.Lee, President Emeritus and Distinguished Research Fellow, Institute of Atomic and Molecular Science, Academia Sinica, President-elect, International Council for Science, Nobel Laureate in Chemistry 1986, 台湾

スピーカー:

安倍晋三, 元総理大臣・衆議院議員

Guo, Shuqing, Chairman and Executive Director, China Construction Bank Corporation, 中国

McElwee, Charles, Vice President Programs, ClimateWorks Foundation, 米国

Yargop Ulhas, President of IT Sector; Group CTO and Member of the Group Executive Board, Mahindra & Mahindra Limited, インド

11:45-12:30

セッション 303: 最終本会議:科学と社会 今後はどうするべきか?

・日本国皇太子殿下のお言葉

議長:

Holliday, Jr., Charles, Chairman of the Board, Bank of America Corporation, 米国

スピーカー:

小宮山宏 三菱総合研究所所長、東京大学名誉学長、日本

尾身幸次 STS フォーラム創設者兼理事長

Roberts, Richard, Chief Scientific Officer, New England Biolabs Incorporated, UK; Noble Laureate for Physiology of Medicine 1993, 英国

Serageldin, Ismail, Director, Library of Alexandria, エジプト

別添資料 5

海外で STS フォーラムについて説明機会を得た国際会議のリスト

1.

会議名 : World Innovation Summit for Education

期間 : 2011 年 11 月 1 日 - 11 月 3 日 (出席は11月1日のみ)

開催都市 : カタール国ドーハ市

主催者 : Qatar Foundation

スピーチタイトル : Nurturing Creative and Innovative Thinking

2.

会議名 : Falling Walls Conference 2011

期間 : 2011 年 11 月 9 日

開催都市 : ドイツ連邦共和国ベルリン市

主催者 : Falling Walls Foundation

スピーチタイトル : Message from Kyoto

3.

会議名 : 10th Annual STOA Lecture

期間 : 2011 年 11 月 29 日

開催都市 : ベルギー王国ブリュッセル市

主催者 : 欧州議会

Scientific and Technology Options Assessment (STOA)

スピーチタイトル : Sustainable Management of Natural Resources